

HSK 毎月十二回（一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日）発行  
一九九四年八月四日 第三種郵便物承認

# HSK

# 遊ぼうよ

# No. 118



「花束」 （高城 謙子 作）

特定非営利活動法人 自立生活支援センター富山

講演会

# 「脳性麻痺の生涯を通じての療育」

## 脳性麻痺児から者に移行していく移行期医療と二次障害

講師：広島県立総合リハビリテーションセンター  
志村 司 先生

専門分野：小児整形外科・脳性麻痺 側弯症  
認定専門医 日本整形外科学会専門医  
日本小児整形外科学会認定医

日時：2025年10月24日（金）

当事者・家族向け講演 14:00～16:00

療育関係者向け講演 18:00～19:30

場所：富山県民会館 704号室

★当事者・家族向けは1時間の講演の後で質疑応答を受け付けます

※参加申込方法は以下の通りです※

①ファックス 076-407-5557

（「10月講演会申込」と記入の上、お名前と中止の際の連絡先電話番号を記入してください。専門職の方は職種もご記入ください。）

②メールアドレス：info@cil-toyama.com

（件名に「10月講演会申込」と記入し、お名前をお書きください。専門職の方は職種もご記入ください。中止の際はいただいたメールアドレスにご連絡します）

※ なお、今回は会場のみでZoom配信はありません。

主催：特定非営利活動法人 自立生活支援センター富山  
富山市新川原町5-9 レジデンス新川原1階  
電話 (076)444-3753

後援：一般社団法人 富山県理学療法士会

参加無料

自立生活支援センター富山25周年・富山生きる場センター40周年  
記念企画について

（趣 旨）私達はここ富山において、障害者自らが地域社会で障害者と健常者がともに生きることを目指して取り組んできました。制度がまだまだなかった昭和の時代から施設を出て、実家から出て「自立」を目指してアパートで1人暮らしを始めてきました。皆でお金を出し合って、皆で集まれる場所を作り、地域社会の人たちと触れあいながら、生きてきた取り組みがありました。与えられる関係や用意されたサービスではなく、皆で育んできた「自立」に向けた取り組みは、終着点のない障害者自身の叫びでなくてはならないものだと思います。

過去から未来へ、どこに向かっていこうとするのか、どこに向かいたいのか。この企画を通して、ともに考えていけたらと思っています。皆様方のご参加をお願いします。

**\*尾上浩二さん講演会&ハンドベル演奏会\***

日 時：12月6日（土）13:00～16:00

会 場：市民プラザ3F AVスタジオ

13:00 受付開始

13:15 開会あいさつ

13:30～14:00 ハンドベル演奏

14:00～ 休 憩（15分間）

14:15～ 尾上浩二さん講演 質疑応答

15:40 閉会あいさつ・終了

尾上 浩二（おのうえ こうじ）さんについて

1960年大阪市生まれ。1歳で脳性麻痺の診断を受ける。養護学校（現・特別支援学校）、施設を経て、中学校から地域の学校へ通う。大阪市立大学入学後、障害者運動に参加。障害者差別解消法の制定や施行準備に関わる。1998年DPI日本会議事務局次長、2004年DPI日本会議事務局長、現在は副議長。障害者政策委員、内閣府・政策企画調査官、内閣府障害者施策アドバイザーを歴任。NPO法人ちゅうぶ代表理事。

## 富山ハンドベルの会「ブルー・リンガー」の紹介

1995年4月、「だれでも簡単に音を出すことができる楽器（ハンドベル）を共に楽しもう」と、声楽家で音楽教師だった大成勝代さん（魚津市在住）の呼び掛けで発足しました。障がいのあるなしや年齢、性別に関わらずハンドベルの大好きなメンバーが集まり活動しています。メンバーは入れ替わりつつ、現在14名。今年で30周年を迎えました。私たちは音楽（ハンドベル）を通して、人と人のつながりを広め、かつ深め、ともに生きる社会を創ることを目的に活動しています。そのために様々な場所で演奏活動を行っています。

※使用Bell： マルマーク社製4オクターブ・イングリッシュハンドベル48bells（社会福祉・医療事業団より補助を受け購入）、トーンチャイム（スズキ楽器・2オクターブ）

※お問い合わせ先：Tel.080-2955-5350 沼田(代表)まで



\*\*\*\*\*

## 募集メッセージをお寄せ下さい。

自立生活支援センター富山は25周年・富山生きる場センターは40周年を迎えることができました。これもひとえに関わっていただいた皆様のおかげだと思っております。

これまでの様々な活動の中でおつきあいいただいた皆様、お世話になった皆様より一言メッセージを募集しております。

心に残った出来事、今後の活動についての励まし等々、何でも結構です。FAXまたはメールにてお寄せ下さい。12月6日当日にご紹介させていただきたいと思っております。

（メッセージの送り先）

FAX：076-407-5557

メール：[info@cil-toyama.com](mailto:info@cil-toyama.com)

もちろんお葉書やお手紙でもかまいません。お待ちしております。

## 「車いす目線から巡る七尾の旅」25

桶屋 善一

今年も猛暑が続いております。如何お過ごしでしょうか。

今年も梅雨らしくしとしと雨が降らず、猛暑が続いています。大きな蓮の葉にアマガエルが飛び回る、という光景が懐かしいです。一步外へ出ると、暑い熱気がむっとします。皆さんの体調は如何でしょうか。

能登半島地震から1年半が過ぎました。能登半島地震の発生時のことを、自立生活支援センター富山から元日の地震を投稿して欲しいという依頼がありました。地震の体験談を投稿すると、大阪府にある「ゆめ風基金」の「ゆめ風通信」に掲載されることになりました。

この「ゆめ風通信」の私の原稿を読んだ三重県の障害者の方が、6月に能登を旅行するので「ゆめ風基金」から青山彩光苑に入所している私を紹介していただいたので、何をしようかと企画を考えていました。

いろいろ考えて「能登半島地震について語る会」を企画しました。参加者に能登半島地震の体験された青山彩光苑の利用者1名、車椅子利用の職員1名、以前、「HSK 季刊わたぼうし」の編集委員をされていて、元日に能登半島地震で穴水町の自宅にいて、被災された障害者の方1名に声をかけ、参加の承諾を取り付けて、企画書を作りました。企画書を作ったとしても、自分で何も出来ないのので、私の担当相談員に、当日の協力を求めました。しかし、語る会の開催が日曜日なので、職員は休日出勤になるので、私の担当介護職員に勤務を調整して、参加、支援をしていただきました。

当日は三重県の障害者の方（NPO 法人なちゅらん）・DET 沖縄 沖縄国際大学他兼任非常勤講師・琉球大学4年の学生1名・沖縄国際大学4年の学生1名、羽咋市のNPO 法人「つながり」の利用者さんが親子で参加がありました。

当日、能登半島地震を体験されたことを訴えることが出来るように、穴水町の自宅に母親と住んでいた、車いす利用者の友人に参加していただき、元日の体験談を語っていただきました。

懇談会の内容は、今回はスペース上、詳しく書けませんので、後ほど冊子を作成し、私のホームページで紹介させていただきます。ご了承下さい。

北陸新幹線の改札口は、金沢駅の中2階にあります。自動改札機になっているので、車いす利用者は通れないと思っていました。しかし、現代はバリアフリー時代。改札口の右端に車いす利用者用の改札口がありました。

改札口を出て、再度、エレベーターに乗り、北陸新幹線のホームに出ました。新幹線のホームは高い位置にあるのです。それだけスピードが出るから安全性を考えてあるのですね。車いすで北陸新幹線に乗車体験された方は、ご存知と思いますが、ホームと乗車口はあまり段差がなく気軽に乗車出来ました。

北陸新幹線が開業時には、何度か乗車しました。10年前の新緑が美しい5月のゴールデンウィーク明けに、早朝に介護タクシーで七尾駅へ向かい、七尾駅で介助者と待ち合わせして、七尾線に乗り金沢駅へ向かいました。尿を膀胱から直接、管で出すための膀胱ろうにする手術をして2年だったので、夜間のトラブルが起きた場合が心配でしたので、強硬なスケジュールでしたが日帰りにしました。

金沢駅で駅員の案内で北陸新幹線のホームまで行きました。北陸新幹線に乗車し大きな東京駅に着きました。東京駅前の丸ビルで昼食。午後は東京駅から丸ビル前の大通りを皇居へ向かいました。江戸城を見ながら、二重橋を渡り皇居に入って行きました。皇居内を見学し、皇宮警察がいるのを見ながら、記念撮影をして東京駅へ戻って来ました。

東京駅でおみやげを買い、金沢駅行きの北陸新幹線に乗車しました。北陸新幹線の車内には、北陸鉄道の広告があるので、北陸新幹線に乗車しているという感じがなく、北陸線、七尾線に乗車しているという感じで金沢駅に着きました。



(写真は金沢駅・中2階 自動改札機)

金沢駅から七尾線に乗り換え、七尾駅から介護タクシーで青山彩光苑へ帰りました。北陸新幹線の車内については、次号に書きたいと思います。

～次号に続く～

## 夢を追って生きたい

平井 誠一

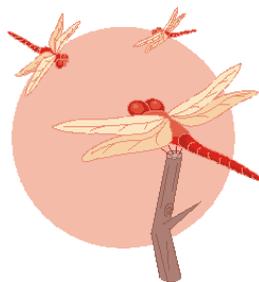
子どもの頃は、絵描きになりたいとか彫刻家になりたいとか思っていました。絵は風景画や植物画を書くのが好きでした。彫刻はライオンや小鳥を彫ったりしました。友達が施設や養護学校から去って行く時に絵を描いて贈りものをしていました。

養護学校を卒業の時に、絵描きも彫刻家も諦めました。反対されたこともあるがそれで食べていけないと思ったからである。でも、卒業後も続けていたのは写真でした。学生の頃からカメラで写真を撮り、フィルム現像や印画紙の焼き付けなどをアパートの一角に暗室を作ってやっていました。白黒でしたが、カラー現像は難しく機材も高価でしたので手が出ませんでした。

カメラは一眼レフで、縛りやシャッター速度、ピントを合わせたりを自分で調整して夜景や逆光の写真を撮るのが楽しかったです。今は、カメラではなく携帯電話にカメラやビデオ機能がついていて、すべて自動化され間違いのない写真やビデオが撮れるようになりました。フィルムや印画紙の現像は薬品を使わずにできるようになり加工することも楽になりました。そういう意味でも誰でも写真やビデオを楽しめるようになったと思います。

空を飛べるような感じの写真やビデオを目指しています。

今、ハマっているのはドローンです。私自身空を飛べないのでドローンだったら、鳥のように空から地上や空を観ることができますし、違った視点から捉える風景や地上に興味があります。車椅子の生活は行動範囲は限られていて、観光地などはまだまだ車椅子のままで入れるところが少なく、そんなところも観られるようになると良いなあと思います。



## \* 会費・機関誌購読料の御礼 \*

会費、機関誌購読料をいただき、ありがとうございました。一同喜んでおります。センターの活動に使わせていただきます。皆様の応援に感謝しつつ、微力ながら障害者と健常者が共に生きる社会をめざして様々な取組みを続けていきたいと考えております。

## 最近の生きる場センターでは



7月11日、日本ダウン症協会富山支部の上原公子さんを講師にお迎えしてダウン症について学ぶ内部学習会を開催しました。生きる場にはいろいろな障害を持つ人達が通ってきているため、お互いの障害について理解を深めることを目的に今回の講座を開催しました。講師の上原さんの息子さんの話、スペシャルオリンピックの話、一般的なダウン症の方の特徴について等いろいろなお話をきくことができました。

今年も8月に高校生のサマーボランティアさんが来てくれました。作業を手伝ってくれたり、食事介助をしてもらったり。写真は来年のカレンダーのデザインを絵を描いたご本人と一緒に選んでいるところです。若い感性でどんなデザインがいいか、意見を言ってもらいました。



戦後八十年、昔、伯母から聞いた長岡の空襲の話思い出しました。きょうだい二人一組になつて手をつないで逃げるように言われていたのに、いざ空襲が始まると皆バラバラになつて逃げたそうです。空襲が終り自宅に戻る道すがら、近所の小さな川にも焼夷弾から逃れようとした人々が折り重なるように亡くなつていたという話を聞き、平和な時代に生まれた私には想像することすら難しかったです。

(文責 田中)

\*スタッフからのひと言\*

編集人：特定非営利活動法人  
自立生活支援センター一富山  
連絡先：〒930-0024  
富山市新川原町5-9  
レジデンス新川原1F  
tel 076-444-3753  
fax 076-407-5557  
郵便振替：00700-5-47253  
自立生活支援センター一富山  
発行人：北陸障害者定期刊行物協会  
富山市今泉312番地  
定 価：100円  
年間購読料：400円